

やぎ座の星座を形作っている角の先の星が $\alpha$ 星ですが、アルケディという名で（子やぎ）という意味があります。角にふさわしくこの星は肉眼で見える二重星として知られていますが、小望遠鏡を使ってみるとそれぞれが二重性になっており、さらに口径20センチ以上の望遠鏡を使ってみるとお供の星にさらにお供がいて、六重星になっています。また、角の星の付け根に輝く $\beta$ 星も二重性でこちらは双眼鏡で黄色と青の色が確認できるので一度見てみると色の違う2つの星の輝きがきれいですよ。

【今月の星座は都合により 2009 年の再録になります】

## ★今月のテーマ 後の月を見よう

残念ながら前月の中秋の名月を観る会は中止になってしまいましたが10月18日には後の月（のちのつき）があります。

中秋の名月は旧暦における9月15日の十五夜ですが後の月は旧暦の10月13日に行うため十三夜と呼ばれています。

中秋の名月は古くは中国から伝わった風習ですが後の月は日本のみの風習でどちらか片方のお月見だけでは片見月などと言われ縁起が悪いとされています。

## - 次回の天文クラブ -

### ●10月の星を見る会

10月16日(土)午後7時30分より  
月の観察  
秋の星座観察

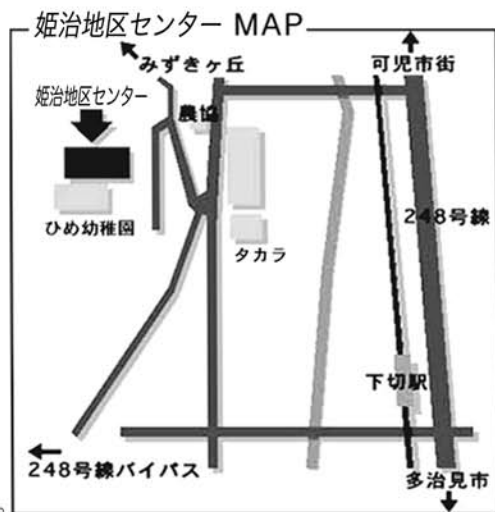
### ●11月の星を見る会

11月19日(水)午後6時00分より  
部分月食の観察  
秋の星座観察

※観察時は冷えますので暖かい格好で来てください。

姫治地区センター  
岐阜県可児市下切 1530  
☎0574-62-0104

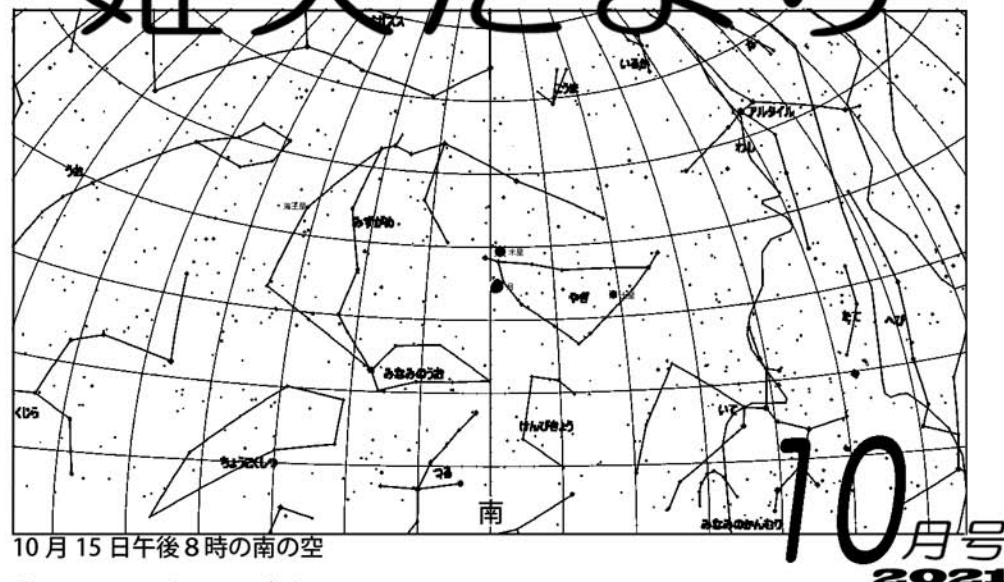
姫治天文台  
<http://himeziten.yu-yake.com/>



JR太多線下切駅より徒歩13分  
2021年10月1日発行

※観望会についてのお問い合わせは  
姫治地区センター (62-0104) まで

# 姫天だより



## ★今月の星座 やぎ座

秋の星座のトップバッターとして昇ってくる山羊座ですが、明るい星もなくちょっと寂しい感じのする星座ですが、黄道（太陽の通り道）10番目の星座として古くから知られています。見つけ方は10月上旬の午後8時ごろに真南の空に逆三角形の形に星並びが並んでいる形を見つけることです。姫治天文台では多治見市や春日井市の街灯りで見つけにくいのですが、夜空の澄んだ日には意外と簡単に逆三角形の星の並びは目立っていて見つけやすいものです。

ところで星座絵を見ると“やぎ座”というのに上半身は確かに山羊の姿が描かれていますが、しっぽの方は魚の絵になっていますよね。こんなへんてこな姿に描かれたことには理由があるそうです。山羊座の起源はバビロニア時代にまでさかのぼるのですが、そのころの冬至点は山羊座にあったそうです。（現在は歳差のため“いて座”に移っています）一番低くなった太陽は冬至点を過ぎると再び少しずつ高く上っていきその姿が岩山をよじ登っていく山羊を連想させたと言うのですが、昔のバビロニアではこのころちょうど雨季になりユーフラテス川の氾濫をもたらす季節のため、魚山羊の姿になったといわれています。でも、みなさんには牧神パーンの神話の方が分かりやすいかも知れませんね。パーンは森と羊と羊飼いの神様です。ある日、神様が集まってエリダヌス川のほとりで酒盛りをしていました。すると突然テュフォンという怪物が暴れこんできました。テュフォンは上半身は人間ですが、下半身はへびで、首は100もあり、目と口から火を吐く恐ろしい怪物でした。驚いた神様たちはそれぞれに姿を変え逃げ出しましたが、パーンはあまりにあわてた為、エリダヌス川に飛び込んだものの水に浸かった下半身だけが魚になり、水面から上は山羊のままです。これを見て大笑いをした大神ゼウスがそのまま星座にしたと言われています。ひょっとすると、星座にされてまで笑いものにされたので、はずかしがって、目立たないように暗い星ばかりになったのかもしれないね。

裏面に続く